

◆◆◆教材の概要◆◆◆

甲子園を目指してS高校に進学した主人公は、新チームのキャプテンとなった。新人戦で負けた後のチームのやる気のなさに部員たちを注意しとがめるうちに、みんなの心が自分から離れてしまい、悩む。そんな中、右肘を故障しプレイができなくなる。野球をやめようかとつぶやいたとき、父親から一喝され、自分のできることをして野球を続けようと決心した主人公は、部員を見つめ、練習の準備やアドバイスをする。そして、夏の大会を前にして思いがけず背番号10をもらう。このとき起こるチームメイトの温かい拍手によって主人公は、多くの人の善意や支えに気付き、それに感謝する。主人公は補欠のキャプテンとしてベンチ入りし、甲子園出場が実現する。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

野球部のキャプテンである主人公が、自分の役割について考えたり、責任を果たそうとしたりする場面や、チームのために努力を重ねて、ベンチ入りを果たすという場面に目がいてしまうが、道徳的論点はベンチ入りのメンバーに選ばれたのは、チームメイトや監督、家族などの支えや温かい心があったからであり、それに対する感謝の気持ちが表れているところである。そこで、主人公がチームメイトの拍手に対して、深々と頭を下げる場面に目を向けさせたい。何かに取り組むとき、自分が積み重ねる努力だけがあるのではないこと、支えてくれた周りの人たちの存在があることに気付き、感謝の気持ちを表すことを意識し、実行することの大切さを感じさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

深々と頭を下げながら、心の中で「僕」はどんなことを言っているだろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆

・ 一緒に野球を続けさせてくれてありがとう。

・ 喜んでくれてありがとう。

・ 監督、みんな、家族のおかげだ。

・ 自分だけで野球をしているつもりになつていた。

・ 野球が好きだからこの学校を選んだのだった。

・ 自分のできることをしよう。

拍手

どんな思いが込められているのだろうか。

拍手

どんなことを考えただろう。

父の一喝

骨折：甲子園出場は絶望的

甲子園を目指すS高校
主人公：僕（橘）

キャプテンなんかやってられんわ」……どんな思いで言ったのだろう。

・ 何でついてきてくれない。

・ 自分はこんなに頑張っているのに。

背番号10



◆◆◆道徳的価値“感謝”について◆◆◆

感謝の心は、他の人が自分のことを大切に思ってくれていることに触れ、相手の行為をいわば「心の贈り物」としてありがたいと感じたときに起こる人間の自然な感情である。

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活が成り立ち、現在の自分があることを踏まえ、それに対する感動や喜びが自ずと感謝の心となって表出されるものであることについての理解を深めることが必要である。そして、自分の心の中にある感謝の気持ちを素直に表現し、それが相手の心に届くことによって潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚させることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

部員や監督の支え等で今の自分があることに気づく主人公の道德的变化を考えることを通して、周りの人々の善意や支えに感謝し、応えようとする道德的実践意欲を高める。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・ 高校野球について知る。	高校野球の試合を見たことがありますか。 ・ ある ・ ない	・ 教材への方向付けをする。
展開	・ 教材を読む。 ・ 自分だけが頑張っているとチームメートを非難する心情を理解する。 ・ 野球や仲間に対する思いを振り返った後の「僕」の考えを理解する。 ・ チームメイトの「僕」に対する思いに共感する。 ・ 様々な人に支えられて頑張ってきた「僕」の感謝の気持ちと感動に共感する。	どんな思いで「キャプテンなんかやってられんわ」と言ったのだろう。 ・ 部員に対して「なぜついてきてくれないんだ」 ・ 自分のリーダーシップについて。 ・ これからどうしよう。 父に一喝された後、なかなか寝付けなかった「僕」は、どんなことを考えただろう。 ・ お父さんはわかってくれると思ったのに。 ・ これからどうしよう。 ・ 続けることに意味はあるのだろうか。 ・ 僕の野球に対する思いって何だろう。 ・ まだ野球をしたい。 ・ 自分だけで野球をやっているつもりになっていた。 ・ 自分のできることをしよう。 2回目の拍手にはどんな思いが込められているのだろう。 ・ ありがとうキャプテン ・ これまでチームを引っ張ってくれてありがとう。 ・ これからもよろしく。 ・ またサポートをしてほしい。 深々と頭を下げながら、「僕」は心の中でどんなことを言っているだろう。 ・ ついてきてくれてありがとう。 ・ 認めてくれてありがとう。 ・ みんなのおかげで、ここまでこられた。 ・ みんなが支えてくれたから、頑張れる。 ・ キャプテンを務めさせてくれてありがとう。 ・ 野球を続けてこられて良かった。	・ 教材を範読する。 ・ 周囲の思いや支え、協力に気付いていない主人公からチームメイトの心が離れていくことを押さえる。 ・ 反省しか出てこない場合、補助発問によって、なかなか寝付けずに、どんなことを考えたから翌日からの行動の変化につながるのかを考えさせる。 補助発問： 「どんなことを考えて、次の日からの行動が変化したのだろう。」 ・ 中心発問の前に、チームメイトの変化を押さえることで、双方向の感謝に気付かせたい。 ・ 1回目の拍手は形式的なものが多いと考えられるが、2回目の大きな拍手にはチームメイトの「僕」に対する信頼や尊敬、感謝などの思いが込められていることに気付かせたい。 ・ 2度目の礼の意味に対する考えを深めるための補助発問として、誰に対するどんな思いかを考えさせる。
終末	・ 本時の感想を記入する。	今日の授業で考えたことや感想を書こう。	・ 自分の生き方に重ねて考えられている感想を紹介する。

評価の視点（例）

- 中心場面での意見や感想文に、自分も他者も共にかけがえのない存在であることを自覚し、様々な形で表れる思いやりや感謝の気持ちが、自他の心の絆をより強くしていることについて考える発言や記述がある。